

海員春闘 令和4年度

中央交渉は全て期限内解決

松浦満晴組合長のあいさつ

内航二団体との令和4年度労働協約改定交渉の妥結にあたって

船主団体内航労務協会および船主団体一洋会との令和4年度労働協約改定交渉の妥結にあたり、組合を代表して一言ごあいさつ申し上げます。

さて、今次労働協約改定交渉は、新型コロナウイルス感染症の中でも感染力の強いオミクロン株の感染拡大による景気の失速に加え、中東やウクライナ情勢など地政学リスクの高まりによる原油価格の高騰など、多くの逆風が吹く中で始まりました。

このような中、貴船団との交渉は、優秀な人材確保の観点から、船員の労働条件の改善が必要であるとの労使の共通認識のもと早期解決に向け交渉を行ってまいりました。

今般、交渉委員各位の円満解決に向けたご尽力によりまして、一定の水準により期限内に妥結することができましたのは、これまで培ってきた労使の信頼関係によるものであると考えております。

稲田、宮崎両交渉委員長をはじめ、交渉委員各位に改めて敬意を表します。

わが国は、少子高齢化などの影響から、多くの産業で労働者不足は顕著となっております。海運業界においても例外ではなく、船員の高齢化が深刻な問題となっており、後継者の確保・育成は必要不可欠であります。

内航海運は、業界全体の中でも特に高齢化が進行していることに加え、若年船員における定着率の悪化などが問題視されています。次世代を担う若者を海へ呼び込み、いかに定着させ、後継者を育成していくかが喫緊の課題となっています。そのためには賃金のみならず、将来にわたって安心して働くことが出来る職場環境の構築に向け、労使が一体となって取り組んでいかなければなりません。

最後になりますが、今次労働協約改定交渉を期限内に解決できたことは、船員職業の魅力向上、後継者確保・育成はもとより、内航海運業界の更なる発展に繋がるものと確信しております。

今後も、引き続き労使の信頼関係に基づき、山積しているさまざまな課題に協力して取り組んでいくことをお願い申し上げ、組合を代表してのごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

「海員だより」